

むさしのエコ re ゾート 令和 3 年度事業計画（案）

1 背景

環境啓発施設むさしのエコ re ゾートは、地球温暖化を踏まえ、ごみをはじめ資源、エネルギー、緑、水循環、生物多様性など、さまざまな環境について考え、学び、体験することができる施設です。ごみ焼却施設武蔵野クリーンセンターの建て替えに伴い、旧クリーンセンターの建物の一部をリノベーションして整備し、昨年 11 月 8 日にオープンしました。

新しいクリーンセンターが稼働するまでの間、市民生活に欠かせないごみ処理を担ってきた旧クリーンセンターは、近隣住民の方々と市とが長年にわたり議論を積み重ねて実現した、武蔵野市の市民参加の象徴ともいえる施設です。

その建物を利用したむさしのエコ re ゾートでは、旧クリーンセンター建設にかかる市民参加の歴史を継承し、市民や市民団体、事業者、関係機関、市など、多くの主体が一緒になって、施設の運営や活用方法、実際に行うプログラムなどについて、検討を進めています。

令和 2 年度はコロナ禍の影響で、プレ事業をはじめ予定していた多くの事業を中止せざるを得ない状況となりました。緊急事態宣言は解除されたものの、未だ今後の見通しが立たない状況が続いています。

むさしのエコ re ゾートでは、基本的な考え方の一つに「進化しながら磨く」を掲げ、時代や価値観、ニーズの変化などに対応しながら、みんなで一緒に新しい価値を創り続けていくことを目指しています。

新型コロナウイルスの感染拡大により社会が大きく変化したことは、誰もが想像していませんでした。生活様式や価値観が大きく変わり、例えば、通勤などでエネルギーを使わない働き方が主流になりつつあり、こうした事象を捉えながら、環境のことを考えるきっかけとなる機会を提供していくことが求められています。

2 事業の方向性

令和3年度は、平成31年3月に策定された「武蔵野市エコプラザ（仮称）管理運営方針」に基づき、新型コロナウイルスの感染状況を見据えながら、以下の方向性のもと事業計画を作成し、着実に取り組んでまいります。

(1) 市民参加型施設の実現

ごみと市民参加の歴史や議論、成果、関わった方々の思いなどを共有し、市民自治を実践してきた本市ならではの施設として、市民や市民団体、事業者、関係機関、市などの主体がゆるやかにつながり、多様な環境啓発の担い手・主体として活躍できるように支援していきます。

(2) 進化し続け、磨かれていく施設

市民が日々刻々と変化する環境問題に向き合い、自ら学び、行動することにより、進化し続け、磨かれていく施設を目指します。コロナ禍で生じたような時代の変化に対応しながら、次々に起こる環境問題に対処できるように、テーマ自体も検討していく過程の中で変わっていくことができます。

多様な主体と共に学び、施設の価値や目標を共につくり、共有し、成長し続け、少しずつ磨かれていきます。

(3) 市の環境施策の実施、他分野事業などとの連携

市民参加型の施設を目指すとともに、市の環境施策に沿った事業を実施・展開します。環境分野の事業に限らず、市や財政援助出資団体が行う様々な分野の事業を、環境を切り口にして連携・実施することで、より多くの市民に環境の楽しさに触れてもらうことができるように仕掛けていきます。

3 事業の内容

事業番号	事業名	頁
基本事業		
1	施設の貸し出し	4
2	コーディネート事業	4
3	エコ re ゾート内展示	5
4	ものづくり工房	5
5	自然体験等（木育・コミュニティガーデンなど）	6
6	図書・資料等閲覧・貸出	6
7	アーカイブ	7
8	広報事業	7
9	アウトリーチの検討	8
参加促進事業		
10	環境の学校 連続講座	8
11	環境の学校 PR プロジェクト	9
12	環境の学校 Green プロジェクト	9
13	市民提案型環境啓発事業費補助金事業	10
14	サポーター事業	10
イベント等		
15	環境フェスタ	11
16	むさしのエコ・チャレンジ 2021（成果発表会）	11
17	環境展	12
18	緑のカーテン	12
19	打ち水 de COOL	13
20	SDGs カードゲーム	13
21	夏休み子ども向けワークショップ	14
22	エコマルシェ等への参加	14
23	小学校社会科見学	15
24	副読本の配布	15
25	こどもエコクラブ	16

基本事業

事業名	施設の貸し出し	事業番号	1
概 要	・施設の貸し出しルール決定後、条例施行規則を改正し、6月頃から運用できるように準備を進める。 ・詳細は資料4・5参照		
ねらい	・多様な主体が行う環境啓発の取り組みにより、市民の学びや体験等の機会を拡充することができる。 ・様々な分野に関わる団体等が、環境に接点を持ちながら施設を使用することで、より多くの市民に環境の楽しさに触れてもらうことができる。		
対 象	施設を使用したい団体・事業者、市民（使用条件あり）		
時 期	6月頃以降、通年		

事業名	コーディネート事業	事業番号	2
概 要	・施設の利用や活動紹介、環境啓発事業の実施などに関する相談やマッチングなどの支援を行う。 ・環境分野、人與人・活動と活動、世代等をつなぐ役割を担うほか、場所、広報など、様々な面からサポートする。		
ねらい	環境に関する市民団体等の環境活動を活性化することで、市民の選択肢が広がり、自発的な環境に配慮した行動の促進へとつながる。		
対 象	施設を使用したい団体・事業者、市民（使用条件あり）		
時 期	6月頃以降、通年		

事業名	エコ re ゾート内展示	事業番号	3
概 要	年間の展示計画に則り、来館者に対して環境配慮行動につながるような内容を展示。		
ねらい	市として市民に周知したいことを、情報提供だけでなく、来館者や環境市民団体などの協力を得ながら、展示の内容と企画運営を含め、共に創造していくことで学びを深める。		
対 象	来館者・環境団体・環境の学校修了生・学校など		
時 期	通年		

事業名	ものづくり工房	事業番号	4
概 要	廃材を使って様々なものづくりを行うことで、楽しみながら環境への気づきを促す。 ・素材の紹介、環境とのつながりを発信・展示 ・季節に合わせた環境に関するテーマの工作 ・大人を対象とした活用方法の検討		
ねらい	環境負荷を低減する考え方やスキルを、ものをつくる楽しさから学び、実践する。		
対 象	来館者（幼児から大人）		
時 期	通年		

事業名	自然体験等（木育・コミュニティガーデンなど）	事業番号	5
概 要	・木育遊具や周辺緑地などを活用した自然体験の機会を提供する。基本的に遊具は木材として、水源林保全の観点から多摩産材を使用する。 ・不用品をアップサイクルした遊具などにより、資源循環を考える機会を提供する。 ・環境に関するカードゲームなどの貸し出しにより、遊びながらにして環境のことを学ぶ機会を提供する。		
ねらい	・環境に配慮した行動や暮らしを考えるベースとなる、自然体験を施設内外で体験できるようにする。 ・不用品をアップサイクルしたボルダリングや植木鉢の着色など、楽しみながら資源の循環などを考えるきっかけとする。 ・子どもの遊びを学びにつなげる。		
対 象	来館者（未就学児・小学生）		
時 期	通年		

事業名	図書・資料等の展示・閲覧	事業番号	6
概 要	カフェスペースやスタディールームにおいて、環境問題や SDGs など様々な分野に関する図書や、子どもでもわかりやすく楽しめる絵本・紙芝居など（いずみ文庫の蔵書約 450 冊を再利用）を含めた 800 冊ほどの蔵書や資料などの展示・閲覧を行う。		
ねらい	館内の展示計画やイベントなどと連携した推薦図書の展示。また、テーマごとの配架など工夫することで、環境への関心を持ち、より広い視野で環境問題を捉えることができるようにする。調べ学習や学びの深まりなど支援する。		
対 象	来館者		
時 期	通年		

事業名	アーカイブ	事業番号	7
概 要	社会の環境情報や、施設で実施した事業の記録・実績などがストックされ、自由に検索し、閲覧することができる場として公開する。		
ねらい	・環境に関心を持った方が、調べたり、関連する情報に出会えたりできるようにすることで、深い学びにつながる機会を提供する。 ・自由に資料を閲覧し、調べることができる場としてタブレット端末の貸出も含め、アーカイブを公開する。		
対 象	来館者（小学校高学年以上）		
時 期	通年		

事業名	広報事業（市報・ホームページ・SNS等）	事業番号	8
概 要	市報やホームページ、SNSなどの各種媒体を活用したタイムリーな情報発信により、市の環境啓発の取り組みを市民に届ける。		
ねらい	・市民の認知拡大や参画意識の醸成を図る。 ・環境の学校PRプロジェクト参加メンバーや登録サポーターの活用により、共感されやすい双方向のコミュニケーションを試行する。		
対 象	市民全般		
時 期	通年		

事業名	アウトリーチの検討	事業番号	9
概 要	環境に配慮した行動を促す施設の取り組みを、施設に来なくても体験してもらえるように、施設外での取り組みの機会・実施手法を検討し、創出する。		
ねらい	コロナ禍の影響で、オンラインなど直接対面しないアプローチ手法が社会的に定着しつつあり、リアルとオンラインの双方で接点を創出していく。		
対 象	オンラインによるアクセスが可能な方		
時 期	通年		

参加促進事業

事業名	環境の学校 連続講座	事業番号	10
概 要	公募した市民の参加により、地球温暖化をはじめとする多様な環境問題に関する連続講座及びその学びの成果発表を実施する。		
ねらい	・様々な分野の環境問題に関する講座を受講することで得られる深い学びや気づきを他の人に発信できるよう促し、環境啓発の担い手として、継続的に活躍できる人材の育成を目指す。		
対 象	15 歳以上の市内在住・在勤・在学の方		
時 期	6 月～11 月		

事業名	環境の学校 PR プロジェクト	事業番号	11
概 要	公募した若年層の市民参加で実施する、むさしのエコ re ゾートや環境に関わる情報を発信するプロジェクト。フリーペーパー・SNS・動画・ホームページをはじめとした各種媒体の作成・更新を行う（成果物・媒体のターゲットはプログラム内で決定）。		
ねらい	・多様なコンテンツの作成により、情報発信力の強化を図る。 ・プログラムに関わった参加者がむさしのエコ re ゾートに継続的に関わることで、環境に配慮した行動を広める地域の担い手を育てる。		
対 象	高校生・大学生		
時 期	第1期：4月～7月、第2期：8月～12月、第3期：1月～3月		

事業名	環境の学校 Green プロジェクト	事業番号	12
概 要	公募した市民の参加により、樹木や草花などの育成に関連した環境問題について学ぶ連続講座・成果発表会を実施する。		
ねらい	樹木・草花・野菜などの環境に配慮した育成方法などの講座を通して、自然環境づくりを学ぶことにより、水環境や生物多様性などの環境問題に関心を持ち、環境啓発の担い手として、継続的に活躍できる人材の育成を目指す。		
対 象	15歳以上の市内在住・在勤・在学の方		
時 期	6月～11月		

事業名	市民提案型環境啓発事業費補助金事業	事業番号	13
概 要	市民団体等による環境啓発事業の実施に対し、1 団体につき 55,000 円を上限に補助金を交付する。		
ねらい	環境啓発事業に要する経費の一部を補助することにより、団体の環境活動の活性化を図り、市民の自発的な環境に配慮した行動の促進に寄与する。		
対 象	武蔵野市内に事務所があるか団体の代表者が市内に住む特定非営利活動法人や任意の団体		
時 期	第 1 期：6 月募集、第 2 期：10 月募集		

事業名	サポーター事業	事業番号	14
概 要	連携会議や環境の学校参加者などから登録制のサポーターを募集し、自主的な活動として、啓発事業を企画・運営、実施する。		
ねらい	・各団体の取り組みから離れ、新たな価値の創出を市民参加で具体化していく。 ・継続的に関わってもらえる市民を組織化し、施設運営や機能発揮の担い手を確保、育成していく。		
対 象	環境活動の経験や環境の学校修了者など一定の素養がある方		
時 期	6 月以降に最初の募集をかけた後は通年		

イベント等

事業名	環境フェスタ	事業番号	15
概 要	環境市民団体等の活動を一堂に集め、市民への発表や体験の機会を提供する。令和3年度はオンラインとリアルとのハイブリッドで創出する予定。		
ねらい	・環境市民団体の活動に市民が触れることで、環境に配慮した行動や地域活動への参加の契機とする。 ・実行委員会形式への令和4年度移行を見据え、市民が主体となって企画・運営する体制の構築に向けて準備を進めていく。		
対 象	市民全般		
時 期	11月14日（日）を想定		

事業名	むさしのエコ・チャレンジ2021（仮称・成果発表会）	事業番号	16
概 要	環境の学校やこどもエコクラブなど、環境について学び、取り組んできた活動を、年度末に市民自身がまとめ、その成果を広く市民に向けて発表する。		
ねらい	これまで事業ごとに実施してきた成果発表やまとめの機会を統合することで、様々な事業のことを共有できるほか、事業ごとの参加者の一体感・連帯感を醸成し、さらなる取り組みの促進へとつなげる契機とする。		
対 象	各事業参加者がつくる市民全般に向けた取り組み		
時 期	2月から3月（土曜日を想定）		

事業名	環境展	事業番号	17
概 要	・ 6 月の環境月間に、地球温暖化・気候危機（緩和策と適応策）について、展示や SMS 等での情報発信により市民周知を図る。 ・ ゴーヤの苗の配布、こどもエコクラブ参加への働きかけを併せて実施する。		
ねらい	・ エネルギー消費の多い夏に向けて、市民に環境問題の周知を図る。 ・ むさしのエコ re ゾートの認知や接点の拡大を図るとともに、関連施設などとも連携して実施する。		
対 象	市民全般（メインターゲットは親子、緑のカーテンなど緑・園芸に関心がある方）		
時 期	6 月 6 日（日）から 1 週間程度		

事業名	緑のカーテン	事業番号	18
概 要	気候危機への適応策として、家庭での夏季の遮光を目的とした緑のカーテンとなるゴーヤの苗を、むさしのエコ re ゾートで希望する市民に配布する。また、その育成の様子をレポートしてもらい、施設ホームページ等で紹介する。		
ねらい	事業移管に伴い、事業目的を気候危機対策として設定し直し、従来の造園業者での配布から施設での配布に切り替えることで、施設への集客と他事業を紹介する接点として活用する。レポート等の報告により継続的な係りをつくる。		
対 象	15 歳以上の市内在住・在勤・在学の方		
時 期	6 月から 10 月		

事業名	打ち水 deCOOL	事業番号	19
概 要	打ち水に必要な、ひしゃくやバケツ等のツールを商店会などに貸し出し、夏季の気候危機適応策の周知を兼ねた市民の自主的な環境活動を支援する。		
ねらい	令和3年度はこれまでの手法を継承するが、令和4年度以降は、雨水循環やむさしのエコreゾート周辺緑地でのガーデニングの取り組みなどと合わせて再編成し、事業の目的も再設定する予定。		
対 象	商店会などを窓口に、その場に来られた市民		
時 期	夏季（7月・8月）		

事業名	SDGs カードゲーム	事業番号	20
概 要	フリースペースなどを活用し、来館している参加者を募って SDGs カードゲームを実施する。		
ねらい	・環境だけでなく、社会・経済的側面も考慮するゲームの体験機会を提供することで、日々の暮らしや社会生活を含む今後の行動を考える機会とする。 ・ゲームを運営する力量をスタッフに養う。		
対 象	中高生以上		
時 期	スタッフ養成後、冬季に開催		

事業名	夏休み子ども向けワークショップ	事業番号	21
概 要	・夏休みの自由研究の課題に対応できるように、環境に関する子ども向けのワークショップを開催する。クリーンセンターが実施しているワークショップの内容を踏まえ、詳細を検討する。		
ねらい	・日々の生活の中にある環境に目を向けることで、環境に関心を持ってもらう。 ・成果物の作成・発表を通して、参加者間に新しいつながりをつくる。		
対 象	小学校高学年から中学生		
時 期	夏休み（クリーンセンター事業と調整）		

事業名	エコマルシェ等への参加	事業番号	22
概 要	クリーンセンターで実施するエコマルシェ等に合わせて、施設として市民に提供する体験企画などを実施・展開する。		
ねらい	人出が想定されるイベントについては、クリーンセンターと一体的に環境啓発に取り組み、市民への接点を確保・拡大する。		
対 象	市民全般（メインターゲットは親子・家族）		
時 期	9月19日（日）、12月5日（日）予定		

事業名	小学校社会科見学	事業番号	23
概 要	クリーンセンターでゴミ処理の現状を学ぶプログラムと併せて、滞在時間に応じて施設紹介・資源循環・ワークショップ等のプログラムを展開する。		
ねらい	・むさしのエコ re ゾートの施設情報や、市や市民活動による環境への取り組み等を学ぶことで、学校や家庭でできる環境に配慮した行動を考え、実践する契機とする。 ・むさしのエコ re ゾートでの体験によって、学習指導要領などが目指す各学習成果の達成度合いが、より充実するよう工夫する。		
対 象	小学生		
時 期	通年		

事業名	副読本の配布	事業番号	24
概 要	副読本「出かけて探して見つけてみよう！武蔵野市の自然」を小学3年生に、「地球温暖化って何？～私たちができることを考えよう」を小学6年生に配布する。		
ねらい	・夏休みの読書や自由研究など、何をするかを考えて、実施していく時期に、環境について考えたり、自発的な行動を促したりするきっかけを提供する。 ・令和3年度は、現在の内容で増刷・配布を行い、令和4年度以降に内容の見直しを行う。		
対 象	市内小学3年生・6年生		
時 期	7月		

事業名	こどもエコクラブ	事業番号	25
概 要	全国で実施されている事業に武蔵野市としても参加し、市内の子どもたちの継続的な環境学習活動を応援する。		
ねらい	・子どもたちに継続的に関わり、施設にも来てもらえるように、当該事業のスキームを活用する。 ・緑のカーテンの参加者を当該事業で募るなど、他の事業を紹介することによって、参加者の活動と市の取り組みとの連携を図る。		
対 象	メインターゲットは小学生と保護者		
時 期	6月頃から開始して通年		